カリフラワー(野菜類、はなやさい類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(日数)	使用回数	使用条件	根こぶ病	べと病	菌核病	黒すす病	黒腐病	軟腐病
スターナ水	31		14	2							◎
トップジンM水	1		1	2				◎			
ベンレート水	1		7	3				◎			
アフェットFL	7		1	3				◎			
スクレアFL	11		1	3				◎			
メジャーFL*1	11		1	3			◎	◎	◎		
オラクル顆水	21		*c	1	☆	◎					
				2		◎					
オラクル粉	21		*c	2		◎					
ライメイFL	21		7	4			◎				
ランマンFL	21		3	4			◎				
			14	1		◎					
			*e	1	☆	◎					
フロンサイドＳＣ	29		*c	1		◎					
フロンサイド粉	29		*a	1		◎					
オリゼメート粒	P2		*b	1							◎
ネビジン粉	36		*a	1		◎					
ネビリュウ粉粒	36		*c	1		◎					
ヨネポン水	M1		1	4						◎	
ダコニール1000FL	M5		*d	3			◎				
シグナムＷＤＧ*1	7・11		7	2			◎	◎	◎		

＊1：「はなやさい類」での登録

*a:播種又は定植前　*b:定植時　*c:定植前　*d:出蕾前(但し収穫14日前まで)
*e:定植前日～当日

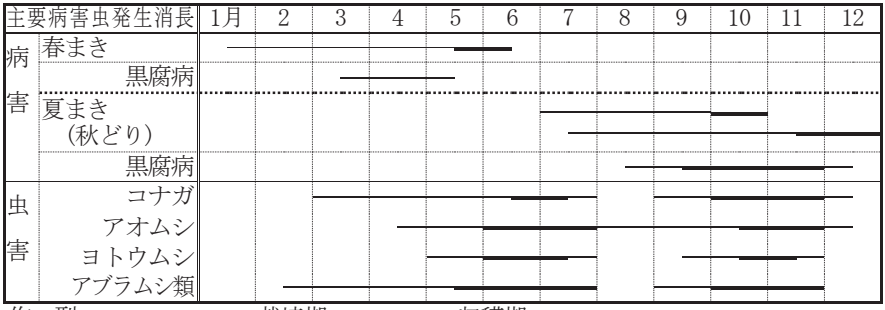
☆:セル成型育苗トレイ又はペーパーポットで育苗している苗に灌注処理する。なお、この使用方法は、土耕栽培による苗には使用できない。

カリフラワー(野菜類、はなやさい類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(日数)	使用回数	使用条件	アブラムシ類	アザミウマ類	カブラハバチ	コナガ	アオムシ	ハイマダラノメイガ	ヨトウムシ	ハスモンヨトウ	シロイチモジヨトウ	オオタバコガ	ウワバ類	ネキリムシ類	キスジノミハムシ	コガネムシ類幼虫	その他害虫
スピノエース顆水	5		3	3					◎											
ジェイエース溶	1B		14	3								◎								
ダイアジノン乳40	1B	劇	30	2		◎			◎	◎								◎		キ
ダイアジノン粒５	1B		*a	2													◎			ケ
			*b	1													◎			
			30	2															◎	
マラソン乳	1B		3	5		◎	◎	◎		◎										
アディオン乳	3A		3	5		◎			◎											
ガードベイトＡ粒	3A		*e	5													◎			
アクタラ顆溶	4A		7	3		◎														
アクタラ粒５	4A		*c	1		◎														
ベストガード溶	4A		1	3		◎	◎													
モスピラン顆溶	4A	劇	7	3		◎			◎	◎										
ディアナＳＣ	5		1	2			◎		◎	◎	◎	◎	◎							
アニキ乳	6		1	3					◎				◎							
アファーム乳	6		3	3			◎		◎	◎					◎					
コルト顆水	9B		1	3		◎														
コテツFL	13	劇	3	2					◎											
アタブロン乳	15		7	2					◎											
カウンター乳	15		7	2									◎							
ハチハチFL	21A	劇	3	2					◎											
アクセルFL	22B		1	2					◎	◎		◎								
フェニックス顆水	28		1	2					◎		◎	◎								
プレバソンFL５	28		*d	1	☆				◎	◎			◎							
			1	3					◎	◎			◎							
ベリマークＳＣ	28		*d	1	☆				◎	◎			◎							
ウララＤＦ	29		14	2		◎														
グレーシア乳	30		7	2			ネ		◎	◎			◎							
ブロフレアＳＣ*1	30		1	3					◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎				
ファインセーブFL	34	劇	3	2			◎		◎	◎										
プレオFL	UN		3	2					◎			◎	◎							
アベイル粒	4A・28		*d	1						◎			◎							
ミネクトデュオ粒	4A・28		*c	1		◎			◎											

*1:「はなやさい類」での登録
*a:播種時又は定植時　*b:定植時　*c:育苗期後半
*d:育苗期後半～定植当日　*e:生育初期
キ:キボシマルトビムシ　ケ:ケラ　ネ:ネギアザミウマ
☆:セル成型育苗トレイ又はペーパーポットで育苗している苗に灌注処理する。なお、この使用方法は、土耕栽培による苗には使用できない。

カリフラワー(野菜類、はなやさい類の登録農薬も使用できる)



作　型　　—；栽培期　　▬；収穫期
病害虫発生消長　—；発生期　　▬；発生盛期

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
根こぶ病	播種前または定植前	**1. 畑の排水を良好にするか、または高畦栽培とする。** **2. 石灰施用により土壌酸度を矯正する。** 3. 定植直前に次の薬剤のいずれかを土壌混和する。 オラクル粉剤 全面処理　30kg/10 a 作条処理　20kg/10 a ネビジン粉剤 全面処理　20～30kg/10 a 作条処理　20kg/10 a フロンサイド粉剤 全面処理　30～40kg/10 a 作条処理　15～20kg/10 a	各種アブラナ科作物に発生し、土壌伝染する。ダイコンでは被害はほとんど見ない。 夏から秋にかけて、高温多湿の年、夏まきに多発する。 春先にアブラナ科作物を栽培した畑で、秋も連作すると多発しやすい。トウモロコシやジャガイモの後作では被害が軽い傾向がある。 薬剤は地層10～15cmの土壌と十分に混合する。
	生育期および収穫後	**・発病株は根、特にこぶを圃場に残さないように早めに処分する。また収穫後、残渣はていねいに処分し、畑にすきこまない。**	
根朽病	播種前	**・高畝にするなど、圃場、苗床の排水を良好にする。**	キャベツ、カリフラワーなどに被害が多く、土壌伝染をする。 秋穫りの幼苗期～生育中期にかけて発生が多い。強風は本病の発生を助長する。
	定植時	**・植え傷み、特に地際部に傷をつけないよう注意する。**	
	育苗期～生育期	**・発病株は早めに処分する。**	
苗立枯病	播種前および播種時	**1. 過密な播種を避け、苗床の過湿に注意する。** **2. 高畝にするなど、圃場、苗床の排水を良好にする。**	病原菌はリゾクトニア菌の場合が多いが、育苗中に雨が多い年にはピシウム菌によることもある。

カリフラワー(野菜類、はなやさい類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
黒腐病	播種前	**・高畝にするなど、圃場、苗床の排水を良好にする。**	各種アブラナ科作物に発生し、土壌伝染する細菌病の一種。 ５月および9～10月頃、比較的気温が低く雨の多い年に発生しやすい。とくに台風などによる強い風雨は、茎葉に傷をつけるため本病の発生を助長する。
	生育期	1. 病原菌は害虫の食害痕などから侵入するので、害虫の防除を徹底する。 2. 発生前から次の薬剤で予防する。 ヨネポン水和剤　500倍	
アブラムシ類	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アディオン乳剤　2000～3000倍 ウララＤＦ　2000倍 ダイアジノン乳剤40　1000倍	
アオムシ	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アファーム乳剤　1000～2000倍 エコマスターＢＴ＊　1000～2000倍 エスマルクＤＦ＊　1000～2000倍	老熟幼虫は薬剤が効きにくいので、小さいうちに駆除する。 ＊野菜類での登録
コナガ	生育期	1. 広範な地域で設置可能であればコナガコン◇を8～10ｍ間隔に支柱を立て、たるまないように畝に平行に100～110ｍ/10ａ又は20㎝チューブを200本/10ａ設置する。 2. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アディオン乳剤　2000倍 アファーム乳剤　1000～2000倍 エコマスターＢＴ＊　1000～2000倍 エスマルクＤＦ＊　1000～2000倍 コテツフロアブル　2000倍 スピノエース顆粒水和剤　5000倍 ダイアジノン乳剤40　1000倍	発生回数が多く、春から初冬まで発生加害する。 幼苗期には芯葉を好んで食害し、花蕾期には花も加害する。 ◇成虫の交尾阻害が目的。使用に当たっては、「昆虫フェロモンを用いた防除資材」の項参照。 ＊野菜類での登録
ハイマダラノメイガ(ダイコンシンクイムシ)	幼苗期	・次の薬剤のいずれかを散布する。 チューンアップ顆粒水和剤＊　2000～3000倍 フェニックス顆粒水和剤　2000～4000倍	夏が高温乾燥のときに多発する傾向があり、８月上旬以降急増する。生育初期の加害では芯止まりとなる。 ＊野菜類での登録

カリフラワー(野菜類、はなやさい類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
ヨトウムシ	生育期	**1. 卵塊で産卵され、若齢期は集団でいるので見つけ次第捕殺する。** 2. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 エスマルクＤＦ＊　1000倍 ジェイエース水溶剤　1000倍	5～6月と9～10月の２回発生する。 若齢期は葉裏に集団で生息し、表皮を残し葉肉をかすり状に食害する。このような食痕を発見したら、薬剤を葉裏に丁寧に散布する。老熟幼虫は薬剤が効きにくい。 ＊野菜類での登録
ハスモンヨトウ	生育期	**1. 卵塊で産卵され、若齢期は集団でいるので見つけ次第捕殺する。** 2. 広範な地域で設置可能であればフェロディンＳＬ*1を2～4個/ha・トラップ１台当り１個を取付けて配置する。 3. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 エコマスターＢＴ*2　1000倍 プレバソンフロアブル５　2000倍 グレーシア乳剤　2000～3000倍	春から初冬まで数回の発生をするが、多くなるのは８月下旬からである。 *1アブラナ科野菜での登録。雄成虫の誘因(大量誘殺)が目的。使用に当たっては、「昆虫フェロモンを用いた防除資材」の項参照。 *2野菜類での登録
ネキリムシ類	生育初期	**1. 被害のあった株元の土を調べ、幼虫を捕殺する。** 2. 次の薬剤を株元に施用する。 ガードベイトＡ(粒)　3kg/10ａ	幼虫は夜行性で昼間は浅い土中などに潜む。
キボシマルトビムシ	生育期	・発生を見たら次の薬剤を散布する。 ダイアジノン乳剤40　700倍	